



Stories for 60th English Reading Contest, 2018

[2018年度 第60回(後期)英語朗読コンテスト テキスト]

もっと

英語に自信をつけたい!



英語朗読

コンテスト

朗読のチェックポイント

- ① Flow
すらすらと流れる (flow) ように読んでいるかな?
- ② Pronunciation
発音 (pronunciation) や音の高低と強弱を正しく読んでいるかな?
- ③ Character
登場人物 (characters) になりきって読んでいるかな?
- ④ Drama
表現力たっぷり (dramatic) に読んでいるかな?
- ⑤ Attitude
自分から進んで、楽しんで読んでいるかな?

模範 CD を何度も
聞いて練習しよう!



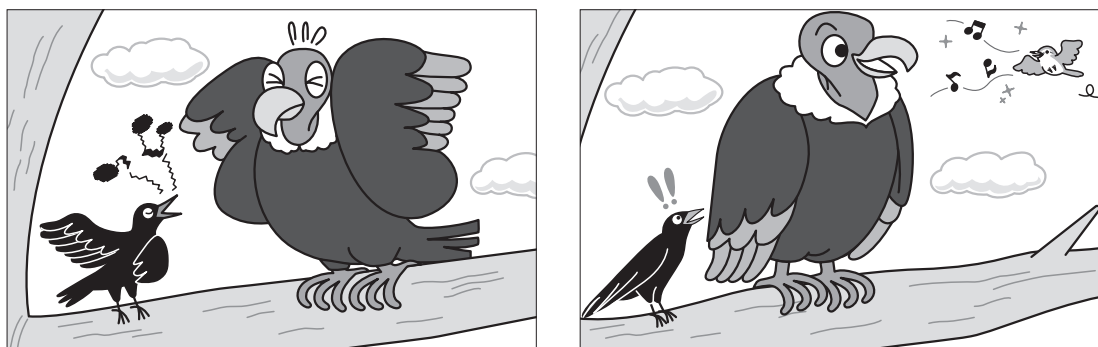
主催 教育開発出版株式会社
協賛 株式会社旺文社



Song of the Andes

- ① In the Andes, a huge bird lands on a tree.
- ② “Squawk!” he cries. “Move over, black bird!”
- ③ “I was about to sing, big bird,” the crow grumbles.
- ④ The condor gets excited. “Can you sing my song? Squaawk!”
- ⑤ The crow covers his ears. “Ack! Let me try. Caw, caawoow!”
- ⑥ “Ugh!” the condor groans. “Are you choking?”
- ⑦ Suddenly, they hear beautiful music. “La, la, la, la....”
- ⑧ “That’s my song! *El Condor Pasa*,” the condor cries.
- ⑨ The crow is amazed. “What bird is that?”
- ⑩ “Tweet, tweet,” chirps a little bird. “I’m a songbird.”

(90 words)



アンデスの歌^{うた}

- ① アンデス山脈^{さんみやく}で、巨大^{きよだい}な鳥^{とり}が木^きに降りてきます。
- ② 「ガーガー！」と怒鳴^{どな}りました。「そこをどきな、ブラックバード！」
- ③ 「ぼくは歌^{うた}おうとしていただけだよ、ビッグバード」とカラスがぶつくさ言っています。
- ④ コンドルは大喜^{およろこ}びです。「ぼくの歌^{うた}が歌^{うた}えるかい？ ギャーガー！」
- ⑤ カラスは耳^{みみ}を押^おさえました。「ウヘッ！ ぼくにやらせて。カー、カアアー！」
- ⑥ 「ウエエッ！」とコンドルはうめきました。「のどをつまらせているんじゃないの？」
- ⑦ 突然^{とつぜん}、きれいな音楽^{おんがく}が聞こえてきます。「ララララ...」
- ⑧ 「あれだよ、ぼくの歌^{うた}ってのは！ 『コンドルは飛^とんでいく』だ」とコンドルが大声^{おおこえ}を出^だしました。
- ⑨ カラスはびっくりしました。「あれは何^{なん}ていう鳥^{とり}なんだろう？」
- ⑩ 「チー、チー」と小鳥^{ことり}がさえずりました。「私は鳴^{わたし}き鳥^{などり}よ」

Sports Day

- ① Elementary school children were talking about their Sports Day.
- ② Bolty said, "I'm going to win the 100-meter sprint!"
- ③ "You will, I'm sure," agreed Saori. "You're fast, like ZOOM! Me, I want to wrestle."
- ④ "I'm going to play baseball," said Ichiro. "I'll hit a home run! Whack!"
- ⑤ Mao twirled around. Swoosh! "Too bad there's no ice rink for figure skating!"
- ⑥ "Does anybody want to play soccer with us?" Keisuke asked. "We need a goalkeeper."
- ⑦ "I only play baseball," said Ichiro. "But can I try?"
- ⑧ Keisuke smiled. "Sure! Why not?"
- ⑨ Bolty asked, "Can I join?"
- ⑩ "Wow! Your team will be awesome!" cried Saori.
- ⑪ The children enjoyed talking about their favorite sports.

(109 words)



スポーツ・デイ

- ① 小学生たちがスポーツ・デイについて話していました。
- ② ボルティが「ぼくは100メートル短距離走で勝つぞ!」と言いました。
- ③ 「うん、あなたなら絶対にできるわね」と沙織が相づちをうちました。「だって速いもの、まるでビューン! だものね。私はレスリングがしたいな」
- ④ 「ぼくは野球をするんだ」と一郎が言いました。「ホームランを打つんだ。カキーン!」
- ⑤ 真緒がクルクル回りました。シューッ! 「フィギュアスケート用のアイスリンクがなくて残念!」
- ⑥ 「だれかぼくらとっしょにサッカーしない?」と圭介が聞きました。「ゴールキーパーが必要なんだ」
- ⑦ 「ぼくは野球しかしていないけど、やってみてもいいかい?」と一郎が言いました。
- ⑧ 圭介がニコッとしました。「もちろんだよ!」
- ⑨ ボルティが「ぼくもやってもいい?」とたずねました。
- ⑩ 「わあ、あなたたちのチームは、すごいことになるね!」と沙織が声をあげました。
- ⑪ 子どもたちは好きなスポーツについて、楽しくおしゃべりしました。

Germany? Deutschland?

- ① Sakura arrived in Berlin. Jonas was at the station.
- ② Jonas greeted her. “Welcome to *Deutschland!*”
- ③ Sakura said, “Great to see you, Jonas! Did you say *Deutschland?*”
- ④ “That’s Germany in German, or *Deutsch,*” explained Jonas.
- ⑤ Sakura thought, “Hmm. No wonder we say *Doitsu.*”
- ⑥ Sakura’s train rolled away. Click-clack, click-clack.
- ⑦ Jonas took Sakura’s bag. “I think you’ll like Germany. Our countries have a lot in common.”
- ⑧ “Oh, really? Like what?” Sakura was surprised.
- ⑨ “Well,” said Jonas. “Germans like to follow the rules. We enjoy natural things. We don’t wear shoes in the house.”
- ⑩ Sakura looked around the huge train station.
- ⑪ “Berlin is also famous for railway technology,” Jonas added.
- ⑫ “We do have a lot in common!” Sakura exclaimed.
- ⑬ Honk! A horn sounded. Suddenly, a train sped past the children. Zoom!

(128 words)



ジャーマニー？ ドイチュランド？

- ① さくらがベルリンとうちやくに到着しました。ヨナスが駅えきに来ていました。
- ② ヨナスが「ドイチュランドへようこそ！」とあいさつしました。
- ③ さくらは「会あえてうれしいわ、ヨナス。『ドイチュランド』って言った？」
- ④ 「ジャーマニー（ドイツ）のことをジャーマン（ドイツ語）、つまり『ドイチュ（ドイツ語）』ではそう言うんだ」とヨナスが説明せつめいしました。
- ⑤ さくらは「ふーん。どうかたしりで私たちは『ドイツ』って言うのね」と思おもいました。
- ⑥ さくらの乗のっていた電車でんしゃが走り去はしっていきました。ガタンゴトン、ガタンゴトン。
- ⑦ ヨナスがさくらのバッグたぶを持ってあげました。「きっとドイツが好すきになると思うよ。ぼくらの国くにには共通点きょうつうてんが多いんだ」
- ⑧ 「あら本当ほんとう？ 例たとえば、どんな？」とさくらは驚おどろきました。
- ⑨ 「えっと」とヨナスが言いいました。「ドイツ人じんは規則きそくを守るまもるのが好すきなんだ。自然しぜんを楽したのんでいるしね。家いえの中なかでは靴くつをはかないよ」
- ⑩ さくらは巨大きょだいな駅えきを見回みまわりました。
- ⑪ 「ベルリンは鉄道技術てつどうぎじゆつでも有名ゆうめいなんだよ」とヨナスが付つけ加くわえました。
- ⑫ 「本当ほんとうに共通点きょうつうてんが多いのね！」さくらは大おおきな声こゑで言いいました。
- ⑬ ピーッ！ 警笛けいてきが鳴なりました。突然とつぜん、一いち台だいの電車でんしゃが子こどもたちたちのそばそばを通とおりすぎすぎて行いきました。ビューッ！